

**(社) 日本時計学会**  
**平成 20 年度 事業計画書**  
(平成 20 年 1 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで)

**I. 事業計画**

**1. 研究会、学術講演会等の開催**

(1) 学術講演会

マイクロメカトロニクス学術講演会を9月上旬、中央大学で開催する。  
研究論文発表20件程度を予定する。

(2) 研究会

時計及び時計応用技術に係わる最先端のテーマを2件選定し、専門の講師を招いての研究会を、3月及び11月の2回中央大学理工学部教室で開催する。

(3) 見学会

会員の研修のため、産業界、特に時計技術に関連する分野において顕著な業績を挙げている工場、研究機関等の見学会を6月に行なう。

**2. 時計及び時計応用技術に関する研究調査分科会の設置**

時計及び時計応用技術に関する研究調査を行うため、平成19年度進行中の2件の研究調査分科会に加えてさらにもう一件のテーマを新設し、合計3つの研究調査分科会を開設する。各研究調査分科会メンバーは10～20名程度とする。年4回程度の会合を開催し、研究調査の成果は報告書または学会誌の記事によって報告する。

平成19年度進行中の研究調査分科会の平成20年度活動計画は以下の通りである。

**2.1 「時計エネルギーに関する調査調査分科会」** (幹事：佐々木健 東京大学)

時計エネルギー調査分科会は、多機能化され、高度な情報機器として位置づけられるようになってきた時計に要求される電源の新しい要求仕様を調査することを目的として設置されている。2008年度の活動は2007年度の活動を継承し、引き続き次に示す2つの大きなテーマを中心に調査研究を進める。

①二次電池技術の現状と時計用二次電池の要求仕様

②新しい発電方式の調査とその技術評価

具体的な活動としては、2ヶ月に1回程度の研究会を開催して調査結果の報告と議論を重ねるとともに、電池メーカーの技術者を招待して話を聞く機会を設けるなど、より具体的な議論を進める予定である。最終的には日本時計学会の分科会として電池メーカーに提案できるような時計用二次電池の要求仕様をまとめることを目標としている。

**2.2 「チップスケール原子時計に関する調査研究分科会」**

(幹事：今江理人 産業技術総合研究所)

年間3～4回の全体会合を開催し、各委員から検討事項に関する報告や議論・考察を行い、調査研究の方向性を検討する。主な調査事項は、チップスケール原子時計に関する国内外の研究開発動向調査、同原子時計の応用分野に関する調査で、提起された課題に応じ、適宜サブワーキンググループなどを構成し、より深い調査研究を行なう。また、小型原子時計開発に関して見学会などを開催し、当該分科会委員の相互理解に寄与する。

### 3. 学会誌、学術図書等の刊行

(1) 学会誌「マイクロメカトロニクス」を下記のとおり年2回発行する。

Vol. 52, No. 198 : 平成20年 6月、400部

Vol. 52, No. 199 : 平成20年12月、400部

(2) 学術講演会講演論文集を年1回発行する。

マイクロメカトロニクス学術講演会講演論文集 : 平成20年9月、150部

### 4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

青木賞表彰委員会を設け、平成19年度の日本時計学会誌「マイクロメカトロニクス」に掲載された研究論文の中から、当学会初代会長青木保博士を記念した第42回青木賞受賞の対象として研究論文を1編選考する。

マイクロメカトロニクス学術講演会の際、第42回青木賞贈呈式を行なう。

### 5. 内外関係機関等との交流及び協力

①米国 National Institute of Standards and Technology、National Association of Watch and Clock Collectors、LIB. of Congress、英国 The British Library、Michael Faraday House、LIB. of Japanese Science & Technology、ロシア The Inst. of Scientific & Technical Informatin(VINITI)、ドイツ Universitats-und Technische Informationbibliothek との機関誌等の交換を行なう。

②研究会を日本機械学会、応用物理学会、電子情報通信学会等関係学会と協賛して開催する。

## II. 会議に関する事項

1. 理事会を6回以上開催する。
2. 通常総会を2月及び12月に開催する。
3. 運営委員会を6回程度開催する。
4. 各研究調査分科会を4回程度開催する。
5. 企画委員会を3回程度開催する。
6. 青木賞表彰委員会を2回程度開催する。
7. 事業委員会を4回程度開催する。
8. 出版校閲委員会を4回程度開催する。
9. 庶務会計委員会を2回程度開催する。

# (社)日本時計学会

平成20年度収支予算書(案) 20071221

平成20年1月1日～平成20年12月31日

科目	予 算		増減	備考
	平成20年度	平成19年度		
<b>I 収入の部</b>				
<b>1 基本財産運用収入</b>	<b>300</b>	<b>300</b>	<b>0</b>	
基本財産利息収入	150	150	0	
運用財産利息収入	150	150	0	
<b>2 入会金収入</b>	<b>2,000</b>	<b>2,000</b>	<b>0</b>	
入会金	2,000	2,000	0	新入会10名
<b>3 会費収入</b>	<b>3,430,000</b>	<b>3,260,000</b>	<b>170,000</b>	
正会員	1,045,000	1,000,000	45,000	209名X5,000円
学生会員	10,000	10,000	0	10名×1,000円
賛助会員	2,375,000	2,250,000	125,000	24件 (総口数95X25,000円)
<b>4 事業収入</b>	<b>350,000</b>	<b>310,000</b>	<b>40,000</b>	
事業収入(研究会)	80,000	40,000	40,000	春秋年2回開催
事業収入(講演会)	150,000	150,000	0	マイクロメカトロニクス学術講演会(年1回)
広告収入	120,000	120,000	0	学会誌(Vol.51,No.197,Vol.52,No.198)
<b>5 雑収入</b>	<b>100,000</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	
雑収入	100,000	100,000	0	購読費、寄付金、文献複写提供
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>3,882,300</b>	<b>3,672,300</b>	<b>210,000</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>400,000</b>	<b>500,000</b>	<b>-100,000</b>	
<b>収入合計(B)</b>	<b>4,282,300</b>	<b>4,172,300</b>	<b>110,000</b>	
<b>II 支出の部</b>				
<b>1 事業費</b>	<b>2,330,000</b>	<b>2,270,000</b>	<b>60,000</b>	
会議費	50,000	50,000	0	会場費、理事運営会議費など
学術講演会費	300,000	250,000	50,000	講演料、アルバイト代、論文集制作費他
研究会費	80,000	80,000	0	講演料、講師旅費、アルバイト他
見学会費	20,000	20,000	0	諸経費
調査研究費	200,000	210,000	-10,000	分科会活動費
通信運搬費	200,000	180,000	20,000	会誌送付(2回)、会費請求、会議催通知他
消耗品費	100,000	150,000	-50,000	事務局文具、PC経費他
印刷製本費	600,000	700,000	-100,000	会誌印刷製本費(年2回)
出版編集費	150,000	150,000	0	編集担当、校正担当、査読料、原稿料
旅費交通費	380,000	380,000	0	理事運営委員会他
青木賞費	50,000	50,000	0	選考・表彰・委員長・幹事へ謝金・賞品代
雑費	200,000	50,000	150,000	振込・振替各種手数料他
<b>2 管理費</b>	<b>1,550,000</b>	<b>1,500,000</b>	<b>50,000</b>	
事務人件費	950,000	900,000	50,000	事務担当手当、HP制作維持費
業務委託費	600,000	600,000	0	事務局用部屋借料
<b>3 予備費</b>	<b>50,000</b>	<b>50,000</b>	<b>0</b>	
予備費	50,000	50,000	0	
<b>当期支出合計(C)</b>	<b>3,930,000</b>	<b>3,820,000</b>	<b>110,000</b>	
<b>当期収支差額(A)-(C)</b>	<b>-47,700</b>	<b>-147,700</b>	<b>100,000</b>	
<b>次期繰越収支差額(B)-(C)</b>	<b>352,300</b>	<b>352,300</b>	<b>0</b>	